平成23年度　シラバス	学年・期間・区分	2年次・後期・A群
	対象学科・専攻	情報工学科
工学実験Ⅱ (　Experiments in Information Engineering Ⅱ)	担当教員	入江 智和（Irie, Tomokazu）
	教員室	情報工学科棟5階（Tel. 42-9099）
	E-Mail	irie@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態 ／ 単位の種別 ／ 単位数	実験 ／ 履修単位 ／ 2単位	
週あたりの学習時間と回数	授業（200分）× 15回	

〔本科目の目標〕
電子計算機の仕組みを念頭においたプログラミングによる基礎実験を行う。各実験内容を体験的に理解する。

〔本科目の位置付け〕
講義で学ぶ「理論」の意味を自らの手足を動かして体験的に理解することにより、実践的な能力を育てる基礎となる。
1i情報基礎と1i情報処理Iの内容理解は必須であり、実験テーマはこれらの科目の修得と内容理解を前提に設定してある。また、2i情報処理IIの内容も適宜必要になる。
本科目の内容は3i工学実験IIの素養となる。

〔学習上の留意点〕
下記8項目の内、与えられた実験を行い、レポートを提出する。あらかじめ指導書を精読し実験に臨むこと。自主的、積極的に実験に取り組み、不明な点は教員に質問すること。実験の内容を十分に理解してから報告書を執筆し、期限内に提出すること。不適切なレポートは再提出が要求される。情報工学科の工学実験評価規定に留意すること。

〔授業の内容〕

授　業　項　目	時限数	授業項目に対する達成目標	予習の内容
1. ガイダンス	4		1iコンピュータリテラシの内容の内、UNIXの基本操作に関する復習を行う。
2. プログラミングによる実験	56	1. 「文字列」の実体 2. 最適化の初歩 3. 実数（浮動小数点）型変数の精度 4. 誤差 5. 配列の大きさ 6. サブルーチン 7. sizeof の結果 8. メモリ上での配置 上記の内、与えられた全ての実験を実施し、その目的を理解し、適切かつ充分な内容のレポートを作成することができる。	1i情報基礎と1i情報処理Ⅰ、2i情報処理Ⅱの内容の内、各実験を実施する上で必要になるものの復習を確実に行う。 各実験の指導書で指示する予習課題を確実に行う。

〔教科書〕なし（指導書を都度配布）
〔参考書・補助教材〕「新・コンピュータ解体新書」，清水忠昭ら共著，サイエンス社
「C・C++入門」，松林勝志ら共著，森北出版

〔成績評価の基準〕実験レポート（70%）＋ 実験の取り組み方（30%）－ 授業態度（40%）
与えられた「実験の実施」および「レポート提出」が一つでも欠けた場合は、単位取得は認められない。

〔本科（準学士課程）の学習教育目標との関連〕1-b，3-c，4-a
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕
〔JABEEとの関連〕

メモ欄